

令和5年度 授業改善推進プラン4年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読解を苦手としている児童や、自分の考えを表現することを苦手としている児童がみられるので支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読の時間を授業の中で積極的に確保し、文字を正しく追う力を高め、読解力の向上に繋げていく。 単元のまとめの段階で自分の考えを表現する時間を設定していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 東京都を中心とした学習対象に対して知識は少なく、社会生活に対して関心が薄い児童がみられるので支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の様子、水やごみ、災害、伝統文化、歴史などについて、見学や体験的な学習を活用して実体験から考えさせると共に問題解決的に学習を進め、社会認識を明確にもたせていく。
算数	<ol style="list-style-type: none"> 文章題における立式の仕方や、式の意味の理解に課題のある児童が多く見られるので支援していく必要がある。 児童内で学習内容の習熟に差が生じてきているので支援していく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 問題を正確に理解して筋道を立てさせるため、図や表、数直線など活用できるツールを積極的に取り上げる。 朝学習の時間を活用して、まなびポケットなどのICTを使って、既習内容の確認を繰り返す。習熟度別学習において、個別の支援を充実させる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲や興味・関心は高い傾向にあるが、理科の学習が日々の生活に生かそうという意識は低いので支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科を学ぶことの意義や有用性について、授業の中で触れる機会をつくるなど、生活との関連を意識させる授業を行い改善を図る。
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 歌唱：歌詞から情景理解や暗記することへの支援が必要である。 器楽：技能習得に個人差があるので支援が必要である。 鑑賞：曲全体のながれを把握したり、特徴に気付いたりしてそれを的確な言葉で表すことが必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 言葉から想像する練習、暗記の為にリレー式に歌う。 ペア活動などで一人一人が課題意識できるようにしてから全体練習を行う。 短い曲や少し長めの曲、様々な構成の曲を集中して聴く練習、発言で共有する。
図画工作	<ol style="list-style-type: none"> 個々には多彩でアイデアも豊かだが、複数で活動・制作を広げることに苦手意識がある児童も多いので支援が必要である。 なかなか発想が広がらず、止まってしまう児童もいるので支援が重要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 個人制作も充実させつつ、共同制作の機会も設け、視野を広げたり、コミュニケーションをはかったりするきっかけとする。 活動の流れや具体的な視点などを伝え、個別に支援する。
体育	<ol style="list-style-type: none"> 運動に取り組む目的、ねらいを理解して活動できている児童が少ないので支援していく必要がある。 運動に対して苦手意識の強い児童がいるので支援していく必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 各運動領域において、特性や目的を意識して活動させるために、めあての確認を確実にを行い、学習の最後にはめあてに対しての振り返りを学習カードに記録させる。 児童同士の教え合い活動、個人の技能に応じたスモールステップの指導、場や教具の工夫、ICTを活用した動きの撮影等の手立てを児童の実態に応じて設定していく。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動の学習の必要性は感じているが、進んで表現することに消極的な児童への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語表現での交流を積極的に行い、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを感じさせる。言葉や身体表現も使ってチャンツやゲームをしながら、英語表現に慣れさせると共にペア学習を取り入れ、失敗を恐れずに表現させる。
ICT端末の活用	<ul style="list-style-type: none"> キーボードによる文字の入力を苦手としている児童が多い。ローマ字・アルファベットの練習やタイピングの練習を日常的に取り入れることで、正確に入力できる児童を増やしていく。 まなびポケットなどの学習ツールを使い、学習の習熟を図る。 	